

海野隆のまいあみ希望通信

メール:sougousenryaku@gmail.com ホームページ: [海野隆 阿見町](#)で検索 2012/08

震災がれき受け入れのため石巻市視察



7月26、27日の両日、宮城県石巻市及び仙台空港周辺のがれき処理の現状について視察に行ってきました。

執行部、議員全員、焼却場周辺の行政区の代表、36名が参加しました。



視察の目的は、茨城県及び阿見町が、東日本大震災により大量に発生し未処理となっている震災がれきの焼却を分担して処分するために、がれきの性状や現状について確認するた

めです。

宮城県では被災した県内を4ブロックに分けて、それぞれ処理する計画を立てています。石巻ブロックは石巻市、東松島市、女川町となっています。東松島には航空自衛隊松島基地、石巻・女川には原子力発電所が立地しています。津波では航空自衛隊も使用不能となり、原子力発電所も13メートル以上の津波に襲われましたが辛うじて危機的な事態に陥らずに済みました。

石巻港内にある石巻ブロックの処理場は正式には中間処理施設ですが、がれきは粗選別、破碎選別、土壌改質選別、焼却施設の流れて、ヤードごとにきわめて整然と処理されている印象でした。

処理を請け負っているのは、鹿島建設や清水建設、西松建設等日本を代表する建設会社です。日本全体を巻き込むこのオペレーションを成し遂げるのはゼネコンにしかできない仕事です。

処理の基本理念はリサイクルの徹底、県内処理の徹底で、発生後3年で処理という計画を実現するために一部を茨城県・阿見町など広域処理を要請するものです。

受け入れには何よりも焼却場周辺住民の理解が重要です。放射能や規制値が設けられている排出ガス等が問題ないレベルでなければなりません。また、最終処分場の容量の問題もあります。これらをクリアしながら阿見町が広域処理に協力することは必要なことです。

わざわざ運搬費用をかけて遠方で処理することの疑問、現地に焼却場をつくってそれで処理すべきだ、というような意見があります。石巻港には現在300トン/日を処理できる焼却機5基が設置されています。阿見町の霞クリーンセン



ターの焼却施設は84トン/日ですから、相当の規模です。しかも、まだ半分しか稼働していないというのですから、これから一挙に処理が進んでいくのではないかと考えられます

今回の現地視察の後、8月中に焼却場での試験焼却を行いダイオキシンやCO、放射能の数値を見たとうえで問題がなければ、地元住民に対して説明会を実施。議会全員協議会を経て、石巻市との受け入れ協定を締結、震災がれきを受け入れて焼却処理するという流れになります。ご意見をお寄せください。

